

平成 28 年度 生活科・総合授業づくり講座報告

1 日 時 平成 28 年 12 月 1 日 (木) 14:30～

2 場 所 山形市総合学習センター 2階 科学研修室

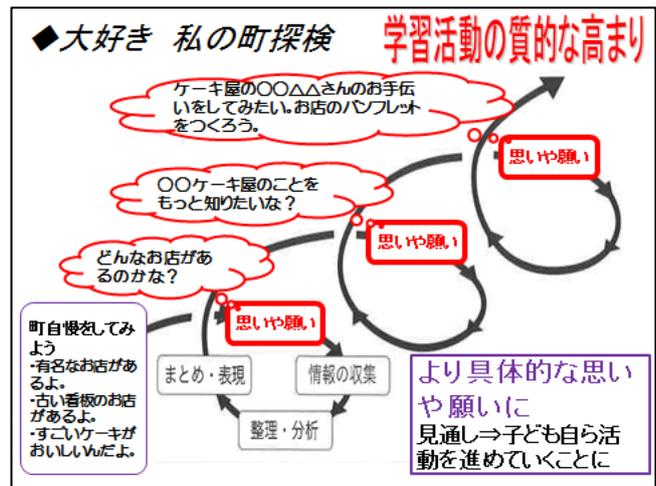
3 参加者 山形市内小学校教員 26名

4 研修概要報告

(1) 探究的な生活科の授業づくりについて

新しい学習指導要領に向けた「生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」より、現在の生活科の成果と課題を受けて、子どもの学習活動の質を高め、つきたい資質・能力を明確にしていくことに取り組んでいくことが必要であることを確かめた。また、そうした授業構想のイメージを具体的に示し、先生方に本日の研修で、「(6) 自然や物を使った遊び」における探究的な生活科の授業の構想をグループごとに行っていくことを説明した。

※詳しくは、資料を参照してください。



(例) 具体的な授業イメージ

(2) ワークショップ

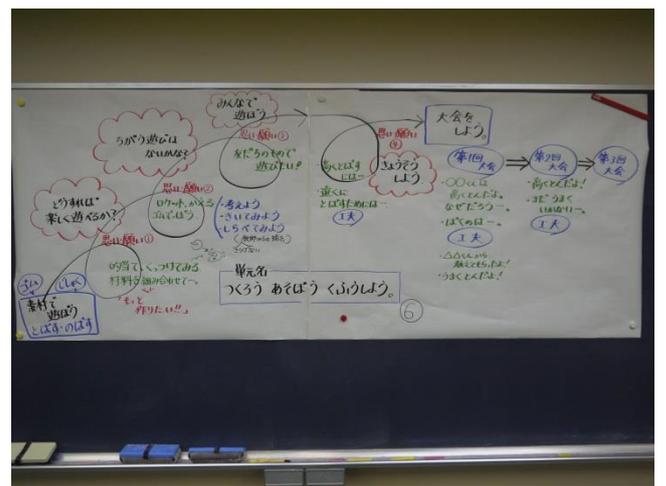
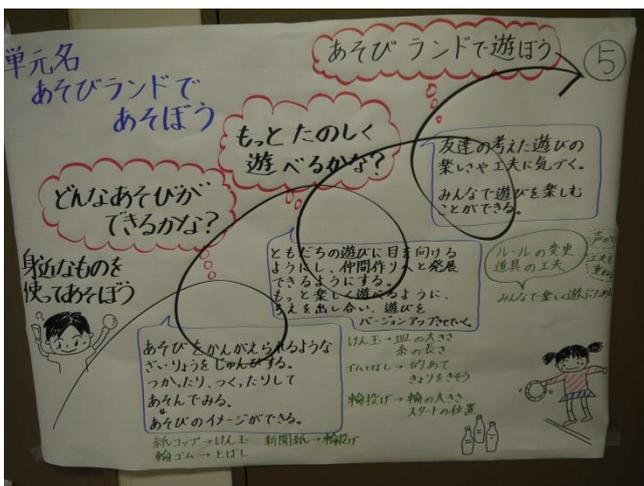
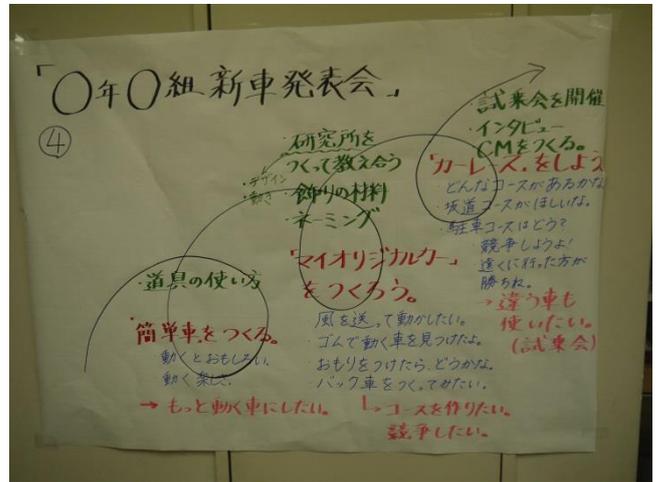
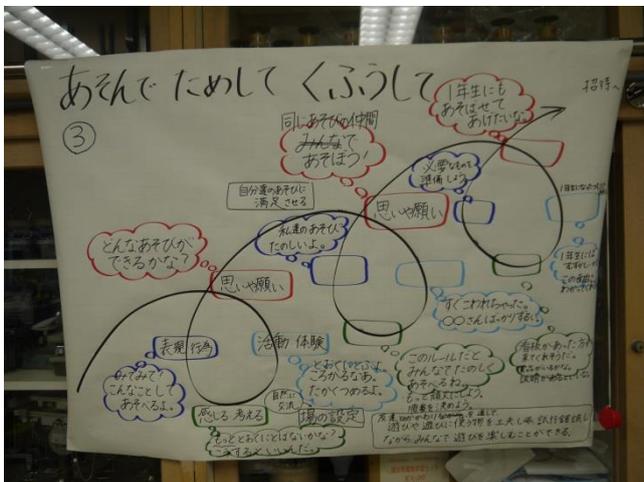
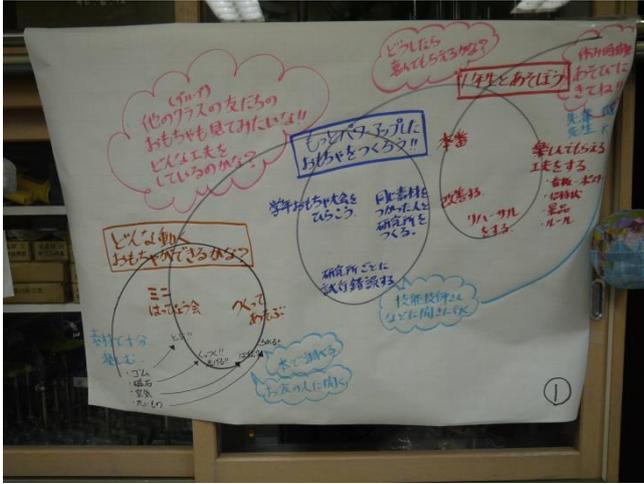
4～5名の先生方で6グループをつくり、「(6) 自然や物を使った遊び」における探究的な生活科の授業の構想を行った。まず始めは、7社の教科書の「(6) 自然や物を使った遊び」にかかわる部分を一人一人の先生方が分析する時間をとった。おもちゃの提示から入るもの、素材の特性から入るもの、とぶ・ころがるなどの機能から入るもの、ペットボトルや牛乳パックなどの素材から入るものなど、教科書によつての違いがあった。また、その違いから子どもの取り組んでいく行為も違ってくることで、子どもに身に付く力も変わってくることなどに気づくことになった。

グループでの授業づくりでは、まず、大判用紙の真ん中に繰り返しの中で学習活動の質の高まりを表す螺旋を書くことから始めた。先生方は、これまでの経験や具体的な子どもの姿を想像しながら授業の構想をつくっていた。6グループはすべて同じ内容の授業であるが、6通りの展開が考えられていた。



(3) 各グループからの発表

各グループから、それぞれの成果物をつかって発表を行った。それぞれのグループの成果物を以下に示す。



(4) ふりかえり

学習活動の質が高まっているかは、子どもの思いや願いの質が高まっているのか、つまり、より具体的な思いや願いになっているのかを見取り、それをサイクルを回す原動力にしていく必要がある。そのために、構成の工夫、手立ての工夫など様々なすてきなアイデアがたくさん発表された。探究的な取り組みは時間がかかる取り組みである。それだけに、カリキ

ュラムをマネジメントして、2年間を見通した生活科の教科経営を考えていく必要がある。

6 参加された先生方のアンケートから（抜粋）

- ・ 子どもの願いや思いを大切にしながら、単元を考えていく大切さを学ぶことができました。班で意見を出し合いながら、具体的に考えられたのも良かったです。生活科の実践報告のような研修があると、より日々の授業に生かされたかと思えます。大変勉強させていただきました。
- ・ 学習の流れをまず螺旋で書いてみることにより、子どもたちの思考の流れや単元全体のイメージがはっきりしてきたように感じました。同じ単元でもいろいろな展開の仕方があることが分かり、参考になりました。
- ・ 生活科の授業の組み立て方が、身を持って学べた。児童の思いや願いが積み重なって次に進んでいくように、日々の授業を考えていきたい。
- ・ 実際に4人で話し合うことで、紙面には表れない内容も含めて、単元の作り方について深めることができた。これまで教科書を見たり、学年の先生に指示を仰いですすめてきたが、今日は単元の流れが、構造的で立体的に見えた。自分なりの考えをもって生活科を進めていきたいと思えるようになりました。
- ・ 子どもたちがどんな素敵な姿に変化していくのか、真剣に考えることができた研修会でした。グループでの話し合いも「こんな時、どうする?」「子どもたちって どうするだろう?」と深く話し合えました。全体発表でも、1つのテーマでいろいろな展開が考えられ、聞いていて楽しかったです。
- ・ 生活科の学習計画をこのようにして作ったことがなかったので、他の先生方やグループの考えを聞いて、大変勉強になりました。子どもの姿を想像して考えるのが、楽しかったです。ありがとうございました。質を高めていくことを意識して、頑張りたいです。
- ・ 子どもたちの反応や教師側の想い、つけたい力によって、同じ教材や単元でも様々な流れや手法があるのだと感じました。子どもたちが学習の中で楽しむ姿や活動中に考えるであろうことを具体的に想像し、必要となる環境や道具等を様々な用意していくことが、大切なのだと思いました。授業づくりが以前より楽しく思えてきました。ぜひ、質の高まりのある授業ができるよう努力していきます。
- ・ 実際に単元を考えて、又他のグループの考えを聞いて、新たな考え方、流れなど勉強になりました。「質的な高まりを目指すには、量も重要」納得です。カリキュラムマネジメントの必要性は実感しました。とても分かりやすい助言をいただきました。
- ・ 授業ワークショップがあり、探究的な生活科の授業づくりというものが明確になったように思います。生活科というと何に重点を置いたらいいのか、よく分からないままだったので、自分の中で整理でき、役立てたと思いました。4班で「動く車」にしぼってやったので、授業で活用できる機会があればやってみたいです。
- ・ 3人の先生方と一緒に授業を考えることで、いろいろなアイデアをいただくことができ、とても勉強になりました。授業の構想を考える楽しさをあらためて感じる時間ができた時間でした。日々忙しく過ぎてしまい、授業研以外はこのようにじっくりと考えることもあまりないのですが、やはり生活科は学年みんなでこのようにじっくりと話し合うのもいいなあ実感しました。今日はありがとうございました。

(文責：山形市理科教育センター事務局長 馬場 賢)